

チーム“An d Do”研修レポート  
“君は一人じゃない ～手を差し伸べる学生支援室～”

【課題認識】

我々の班ではまず、テーマ設定のためのブレインストーミングを行った。我々の討議の特徴は、問題解決型（何が問題か、解決するにはどうするか）ではなく、いわば理想実現型（理想状態を描き、その実現の方法を探る）であった。そのなかで「大学職員として学生のために何をすることができるのか」という共通概念が見えてきた。日常業務において感じている問題、理想像、および改善を希望している点をカードに書き出すことで、学生に係ることと大学におけるシステムや組織に係ることに大別された。そこで出された意見の目的とするところは全て「学生のため」となることに帰着する点に着目し、議論を進めた。その結果、「学生のため＝学生の満足度を向上させる」ことが導き出されたが、大学の担う社会的役割を考慮した時、それはただ学生を満足させることに終わらせず、社会貢献できる人材を育成することにつながる必要性に気付いた。

そこで我々は、社会貢献につながるような成長を促すためには、大小問わず“コミュニティ”に属することで、チームワークの重要性や困難を乗り越えることを学び、達成感を得ることのすばらしさを知ることができるのではないかと考えた。「所属⇒成長⇒貢献」という流れを軸に、学生を成長させることで大学における満足度を向上させる方法を検討することとした。

「所属」とは大小を問わないコミュニティに属することを想定しており、最近の学生気質を考慮すると、自発的に他者に働きかけることを苦手とする面も多く見られ、入学後に友人を積極的に作ることができず、入学後かなり時間が経過しても、いずれの集団にも所属せず一人で過ごす学生が多く見受けられる。彼らは、昼食をとる場所を確保することすら苦勞し、授業中もすでに出来上がった集団に入ることができず、学内での居場所がないと感じている。そのような学生のために、多くの大学では学生支援室を設置し、工夫を重ねている。我々は従来の学生支援室の機能に、こちらから「迎えに行く」という機能を加えることで、今まで自ら支援室を訪れることができなかつた学生を積極的に迎え入れたいと考えた。「君は一人じゃない」という呼びかけにより、コミュニティ形成を支援することで、多くの貴重な体験を通して学生に成長を実感させることをテーマとした。

【討議内容】

課題の認識から、解決策へ至る討議の流れをより具体的に記す。

「学生の満足度を高めたい、学生生活を充実させたい」という当グループのテーマを実現するための取り組みを策定するにあたり、我々は以下のことを討議した。

①学生が充実している瞬間について

友達という時、資格を取得することができた時という具合に、まず各自が意見を出し合った。その後、似通った意見をグルーピングする作業を行った。出し合った意見を改めて見ていく中で、カテゴリーを『所属・成長・貢献・楽しみ』という4つのキーワードに基づいて分類することとした。その結果、「集団に所属をしている時・成長を実感した時・他者／社会に貢献している時に学生が充実していると感じるのではないかと結論づけた。

②成長を実感することができるシーンについて

①の中から、「成長」に焦点を絞り、学生が成長を実感することができるシーンについてというテーマで議論を行った。チームワークを発揮することができた時・困難を乗り越えた時・達成感が得られた時・知識を習得することができた時という4つの意見が出され、これらの意見から我々は、「学生が何らかの

コミュニティに所属し、他者と関わりも持つ。そこで種々の経験を通し、互いに支えあうような強いつながりで結ばれていく中にこそ、自らの成長を実感することができる機会が多く存在するのではないか。自らの成長を実感し自信を深めることで、自己の体験や経験を活かして他者や社会に貢献しようとする姿勢が身につくのではないかと結論づけた。

### ③我々はどのような取り組みを行っていくべきかについて

我々が着目したのは学生支援である。各大学で行われている学生支援の現状や課題（待つ姿勢の支援室、ランチメイト症候群など）について意見を出し合った後、我々は、「従来の学生支援体制をさらに発展させた支援体制、具体的には、学生のコミュニティ形成をサポートする体制の構築が必要不可欠である」と結論づけた。

#### 【提案内容】

- ・学生が学生生活に満足している状態を、学生自身が成長を感じているときと設定。
- ・我々の考える成長には人とのつながりが不可欠であり、学生は他者との関わりの中で成長し、社会に貢献できるようになるのではないかと。

⇒彼らが所属できる“コミュニティ”の形成・参加を支援する学生支援室の提案

### ◎「新学生支援室」：支援される側、支援する側双方に対して「一人じゃない」というメッセージを送る。

#### 1. 支援が必要な学生

- ・学生生活の悩み（授業・友人・課外活動・経済的困窮など）を相談できる
- ・従来の学生支援室との違いは、“迎えに行く”姿勢

⇒ウェブアンケートの実施に始まり、そのデータの回収開示、データに基づく積極的な学生対応により、不安や悩みを解消

#### 2. 支援したい学生

- ・「自分はいったいことができる」、「こういう人の役に立ちたい」という要望にも対応
- ・支援できる学生の熱い思いも離さないということも特徴。

### ◎アンケートの利用

- ・アンケート結果の開示による仲間探し（「他にも同じ悩みを抱えている人がいるんだ」と気づくことができる）
- ・支援を必要とする側と支援したい側のマッチング（それぞれのニーズに応える）
- ・データベース化による支援の継続（経年的なサポート）

### ◎継続した支援の結果、学生支援室に蓄積されたデータにより、以下の効果が期待できる。

- ①就職活動支援への適切な利用
  - ②学習意欲の向上（単位の取得）につながるバックアップ
  - ③支援された側が、将来、支援する側への成長を促すために活用される。
- ⇒学生の成長を促すことで、社会に貢献できる人材の輩出を目指す。